



保和苑造成のため土木作業を行う保和苑保存会の人々

[市立博物館提供]

保和苑は、今から100年前の大正15(1926)年、地元有志の皆さんの手により造成が始まりました。桂岸寺の畑地を開発し、池を掘り、土を盛り、樹木を植え、昭和5(1930)年12月に完成しました。

特集

昭和100年 おも 想いが彩る保和苑

問合せ▼みとの魅力発信課(☎232・9107)



昭和100年

令和8(2026)

年は、昭和元(19

26)年から起算して満100年となる年です(※)。

日本にとって昭和の時代は、激動と変革、苦難と復興の時代でした。水戸市でもさまざまな出来事があり、昭和をたくましく生きた先人たちの努力によってそれらを乗り越えてきました。

今回の特集では、最初の整備開始から100年を迎えた「保和苑」を紹介します。「昭和100年」をきっかけに、昭和の記憶を辿り、改めて先人の躍動に学びながら、新たな発見や希望ある未来に想いを馳せてみませんか。

内閣官房ホームページ
「昭和100年」
ポータルサイト



□昭和100年に関連する企画

博物館
歴史部門常設展示



当時の資料や古写真をもとに、昭和を迎えた水戸のまちなみや戦争被害、戦後の復興の様子を紹介しています。
期間▼令和9年5月下旬まで(予定)
場所▼市立博物館
料金▼無料

問合せ▼同館(☎226・6521)

アーカイブズの部屋
「史料が語る 昭和の茨城」



改元から100年を記念し、昭和時代の茨城を紹介します。

期間▼10月10日(土)～12月6日(日)

場所▼県立歴史館

料金▼一般180円、満70歳以上90円

高校生以下無料

問合せ▼同館(☎225・4425)または歴史文化財課(☎306・8132)

※1926年は、12月24日までが大正15年、12月25日からは昭和元年となっています。

これからも愛される公園に——
100年の想いを、未来へ



保和苑周辺史跡
観光連絡協議会 会長
川又 一郎さん

「あじさいは、丈夫に見えて実は細やかな手入れが欠かせないですよ」と話すのは、保和苑周辺史跡観光連絡協議会の活動に携わって20年以上になる川又さん。せん定作業のほか、枯れたところを手入れしたり、雨が降らないときには水やりをしたりと、丁寧に管理を行っています。

大正15年に地元の有志により発足した「保和苑保存会」。保和苑を造成・管理してきたその活動は「保和苑振興会」、「保和苑振興協議会」、そして「保和苑周辺史跡観光連絡協議会」へと続いてきました。地元の方々による活動がこれまで長く続いてきた



令和 8(2026)年の「水戸のあじさいまつり」。近隣の高校生とコラボレーションしたイベントも行われました。

理由をたずねると、「あじさい庭園の魁とも言える保和苑を誇りに思う気持ちがあったからだと思います。地元の人の手で造り、育て、市と協力して守ってきた、努力の賜物です」と微笑みます。

一方で、今は高齢化も進み、少しずつそのような想いを持つ人が減っていると感じているそうです。地元の人々がこつこつと紡いできた保和苑100年の歴史。川又さんは「散策を楽しんだり、小さな子どもが遊べる場があったりと、市民に愛される公園としてこれからも発展してほしい」と未来への希望を語りました。

4. 水戸のあじさいまつり

保和苑には梅、桜、ツツジ、藤など季節ごとの花が植えられていたことから、夏の花として選ばれたのがあじさいでした。昭和50(1975)年には、第1回目となる「保和苑アジサイまつり」が開催され、今年で52回目を迎えました。



現在の保和苑



3. 保和苑のクマ(左)、サル舎(右)

戦争で池は枯れ、築山には防空壕が掘られ、保和苑は荒廃一。そこで昭和22(1947)年、再び地元有志が集まり、公園の再整備が始まります。昭和25(1950)年に保和苑は桂岸寺から市へ移管され、子どもたちが遊べるプールが設置されたり、後に砂場、遊具などが置かれたりしました。また、進駐軍の将校から寄贈されたクマをはじめ、アシカ、サル、ツル、シカなど、さまざまな動物が飼育されました。

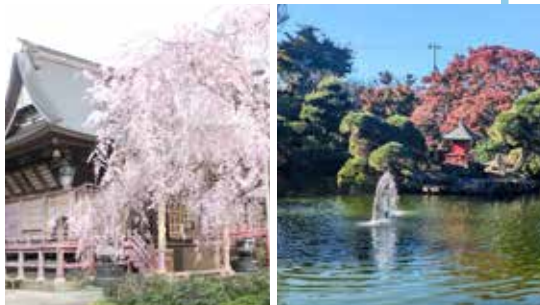


保和苑 松本町2287-1

保和苑周辺には、今もさまざまな花木があり、四季を通じて楽しむことができます。

問合せ▶

「水戸のあじさいまつり」については観光課(☎232-9189)、保和苑の管理については公園緑地課(☎232-9214)、市地域文化財については歴史文化財課(☎306-8132)、資料については市立博物館(☎226-6521)へ



水戸駅から県庁に向かう昭和天皇(昭和4年)
[市立博物館提供]



昭和の水戸

昭和を迎えたころ、水戸の市街地には洋館が次々と建設され、華やかなまちなみに変貌していきました。

一方、水戸には水戸歩兵第二連隊などの陸軍が駐屯し、軍都としての顔も合わせ持っていました。水戸を中心に行われた陸軍特別大演習に伴い、昭和天皇が来水されたことも。

日中戦争や太平洋戦争が開戦すると、こどもを含むすべての人々の日常が戦争と隣り合わせとなります。

昭和20(1945)年8月2日未明、アメリカの爆撃機B-29による水戸空襲で、市街地は大部分が全焼。300名以上の方が命を落としました。

戦後、人々のためめぬ努力で水戸は急速に復興・発展していきます。昭和51(1976)年には、20万人都市の仲間入りを果たしました。

保和苑100年の歩み

市の公園の一つ、保和苑。その名の由来は、元禄時代水戸藩第2代藩主徳川光圀公が大悲山保和院桂岸寺の庭園を愛し、「保和園」と名付けたことにあります。

大正15(1926)年に地元有志によって整備が始まり、昭和5(1930)年に完成。池に築山を配した純日本庭園で、名前も「保和苑」と改めました。昭和30年代には本格的にあじさいの植付けを始め、現在は西洋あじさい、がくあじさいなど約100種・6000株のあじさいが苑内に咲き競う名所としても知られるようになりました。

保和苑は、その始まりから今に至るまで、実に100年もの期間を、地元の皆さんの手によって存続してきました。地域の歴史を語るうえで重要な文化財であり、かつて日本庭園として秀麗な景観を擁する名勝として、令和2年3月、市地域文化財に認定されています。

2. (上)開運の滝(明星ヶ滝)、(下)明星ヶ池
築山に、滝や池を配置。「明星ヶ池」は、かつて水戸城下・下市にあった同名の池から名付けられました。



1. 保和苑開設10周年を祝う(昭和10年)
保和苑周辺は水戸歩兵第二連隊基地の東側に位置しており、軍人が利用する店が多く、活気にあふれていました。

[資料1〜3 市立博物館提供]